

企業名：伊藤忠商事株式会社

レポート名：統合レポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

伊藤忠商事が創業当初から積み上げてきた強みを、絶えることなく積み上げていくことを目標としていることが分かる。自己変革力、総合力と個の力、非資源分野の収益力、中国・アジアでの経験と実績の4項目が相互に作用し、持続性を高める好循環を生み出すことを目指している。2011年度に生活消費分野で、2014年度に非資源分野で、ナンバー1の成績をとり、2021年度には過去最高益の大幅更新を達成したことから、「ブレずに強みを積み上げていく」という将来像については十分理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

伊藤忠商事は、非資源分野を強みとしているため不景気や物価高騰の影響を受けずに売り上げを伸ばしている。具体的な非資源事業として、日立建機への投資を挙げている。消費者のデータから顧客が現場で抱える課題を分析し、最適な建機を提案するファイナンス提供を行っている。また、財閥系商社との差別化として、消費者に近いところでビジネスを「ハンズオン」で育成するスキルがあることを度々強調しており、顧客のニーズに応えられるという点で競争優位性があるというのは十分理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記のように積み上げてきた強みの相互作用により好循環を生み出し、持続性を高めるという目標と、それに対する現在の具体的なアプローチが読み取れた。また、レポート内で、自らのPEST分析を行っていた。経営環境は不透明であり、リスクとも機会ともとらえられる事項が多い印象であった。しかし、リスクへの対応は徹底しており、ビジネスモデルに関するリスク、地理的リスク、情報システム及びセキュリティに関するリスクそれぞれについて明記されていた。それぞれについて、適切な対応策があり、競争優位性に持続性があると十分理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

個の力が伊藤忠商事の強みの要素の一つであるにも関わらず、レポート全体に対する人材戦略の説明は少ないと感じた。また、人材育成に対する具体的なアプローチは他の企業と大きな違いはなく、特異性は見られなかった。しかし、働き方改革は積極的に行っており、企業理念から見ても自身の人的資本の価値は向上すると考えられえる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

分かりやすくシンプルな言葉でセクションごとの要点」をまとめていたことが良かった。また、図や表を上手く使って企業の目指す経営イメージを表していたため、今後のアプローチがどのように目指す結果につながるのかが明確で良かった。

改善点として挙げられることは、専門用語で抽象的に書かれている部分が多かったことである。総合商社であるため仕方がないことではあるが、全体的にもう少し具体的な説明が加わると良いと感じた。